

人権啓発 問 福祉課 人権推進室 ☎43-8246 FAX43-6750

「社会を明るくする運動」をPR 街頭キャンペーンを実施

法務省主唱の「社会を明るくする運動」は、すべての国民が犯罪や非行の防止と、立ち直りについて考え、それぞれの立場で力を合わせて、犯罪や非行のない明るい地域社会を築こうとする全国的な活動であり、今年で67回を迎えました。

市では、この運動の趣旨を市民の皆さんに広く知ってもらうため、7月4日に市内ショッピングセンター4カ所で街頭キャンペーンを実施しました。

更生保護、福祉、教育などの10団体から約70名が参加し、買い物帰りの方にリーフレットや啓発品などを配布しながら運動の趣旨を説明し、広報活動を行いました。市保護司会の栗野会長は、「犯罪や非行の防止、罪を犯した人たちの更生に理解を深め、力を合わせて犯罪や非行のない明るい地域社会を築いていくことが大切であると多くの方に理解してほしいです」と話していました。



買い物客などに声を掛け、啓発活動を行う推進委員

農業委員会 問 農業委員会事務局 ☎45-8991 FAX44-6004

新しい農業委員・農地利用最適化推進委員を紹介します

農業委員会等に関する法律の改正により、農業委員の選出方法が公選制から任命制に変わり、新しい農業委員(19人)が市長から任命され、7月21日の総会において、会長は中山基委員、会長職務代理者は飯村昇委員に決定いたしました。

また、遊休農地の発生防止や解消に向けた調整を行うなど、農業委員とともに地域で農地などの利用の最適化に取り組む農地利用最適化推進委員が新設され、11人が農業委員会から委嘱されました。任期はともに3年間で、

【農業委員19人】

(敬称略)

下妻地区	稲川 隆、森 槇雄
大宝地区	篠崎 宏之、白井 安男
騰波ノ江地区	中山 基、程塚 裕行
上妻地区	栗島 喜好、齋藤 孝夫
総上地区	京空 克芳、野村 操
豊加美地区	飯岡 勝美、木村 一巳
高道祖地区	飯村 昇、塚田 好克
蚕飼・宗道地区	倉持 治、平塚 良一
大形地区	柴崎 尚、高橋 節雄、 中島 喜美夫

【農地利用最適化推進委員11人】

(敬称略)

下妻地区	稲川 広美
大宝地区	関 純生
騰波ノ江地区	篠崎 隆一
上妻地区	飯村 正、磯山 誠
総上地区	草間 昭
豊加美地区	草間 治
高道祖地区	笠島 修
蚕飼・宗道地区	鈴木 幹夫
大形地区	飯島 晴彦、羽賀 茂

有料広告欄

地域活性化 問 市民協働課 ☎43-2114 FAX43-1960

宝くじ助成事業でコミュニティ活動を推進 長萱自治会

長萱自治会に、平成29年度宝くじの助成を受けて机や椅子、エアコンなどの公民館備品が整備されました。

地域で行われた集会では、「これまでお年寄りが使うには、エアコンもなく不便なところがあったが、備品が整備されたことで大変使いやすくなった」など喜びの声が聞かれました。

この助成は、宝くじの社会貢献広報事業としてコミュニティ活動に必要な施設や備品を整備するために行われています。これらの備品整備をきっかけに、地域の連帯感が高まって、コミュニティ活動が活発になり、長萱自治会では今後も、住民間の交流を深めるなど、より一層の地域活性化が期待されます。



整備された備品を利用し、地域の集会がにぎやかに行われました

地域づくり 問 介護保険課 ☎43-8264 FAX30-0011

生活支援整備に向けた勉強会を開催



7月11日に下妻地区で開催された勉強会

市では、誰もが住み慣れた地域で最後まで安心して暮らし続けられる地域を目指して、地域で助け合い、支え合うよう「下妻市の地域づくりを考える勉強会」を7月3日に千代川地区、7月11日に下妻地区で開催しました。

講師に公益財団法人さわやか福祉財団の長瀬純治氏を迎え『目指す地域像の実現に向けた地域の基盤づくり』と題した講演に自治区長、民生委員、ボランティア団体などから約150名が参加しました。

長瀬氏は「目指す地域像とは共通のゴールであり、地域住民が安心して心豊かに暮らせる社会の実現には、課題に対して行政と共に進める住民主体の取り組みが必要である」と訴えました。

参加者からは「これから地域住民主体の取り組みが必要になっていくことを誰もが関心を持つ必要があります」と感じた。私も微力ながら手助けができればと思います」などの感想がありました。

環境美化 問 建設課 ☎45-8125 FAX43-2945

いつまでも川を美しく安全に利用できるように「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」を実施

ふるさとの鬼怒川・小貝川がいつまでも安全できれいな川になるように、「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」が7月8日の早朝、市内24カ所で実施されました。

本市からは、河川周辺の自治会、老人会、子ども会などを中心に99団体から約1,700人が参加。毎年参加している男性は「10年前に比べるとごみは少しずつ減ってきている」と話し、回収された空き缶などのごみは約40m³にもなりました。

このクリーン大作戦は、河川愛護月間の7月第2土曜日を統一日として、堤防や河川敷に投棄されたごみを一掃する取り組みで、鬼怒川・小貝川の流域24市町と茨城県、栃木県、国土交通省下館河川事務所などで構成する「鬼怒川・小貝川流域ネットワーク会議」が主催。今年で27回目となりました。



拾ったごみをまとめる参加者たち(小貝川右岸・大園木地区)

有料広告欄